

子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

多 保 田 治 江

はじめに

前回、「子どもの豊かな表現活動を求めて（１）」では音楽と動きの表現活動を通して表現活動を捉え、

○表現活動は一人一人の子どもとその場にいる他の子どもと保育者とのトライアングルの関係が重要である。

○保育者は子どもの表現活動の「種まく人」の存在である。

と筆者は指摘した。^{註１}

幼稚園や保育所の子どもの表現活動において、保育者の音楽に対する姿勢や態度が大きな影響を及ぼしている。

生得的な面もあるが、過去の音楽経験の蓄積が人間の音楽に対するアイデンティティー (Identity) を形成する。

そこで、保育科１年生（１２０名）・２年生（１０７名）計２２７名に次のようなアンケートを実施した。

Ⅰ．小学校・中学校・高等学校において受けた音楽教育についてどの分野が中心だったと思うか。（複数回答してもよい）

表Ⅰ

１年生	小学校	中学校	高等学校
歌唱表現	101 87.1	61 52.6	35 44.9
器楽表現	94 81.0	46 39.7	7 9.0
鑑賞	36 31.0	53 45.7	38 48.7
音楽理論	2 1.7	7 6.0	24 30.8
どの領域も均等	11 9.5	43 37.1	32 41.0

２年生	小学校	中学校	高等学校
歌唱表現	75 73.5	54 52.9	38 56.7
器楽表現	61 59.8	36 35.3	8 11.9
鑑賞	14 13.7	36 35.3	33 49.3
音楽理論	1 1.0	10 9.8	33 49.3
どの領域も均等	19 18.6	36 35.3	12 17.9

上段人数
下段回答率

そのうち1年間の講義と演習を履修後、2年生に実施する教育実習(10週間)・保育所実習(10日間)によって、直接子どもたちと学生は様々な活動を共に行うのである。

Ⅲ・Ⅳは教育実習・保育所実習を終了した2年生を対象にアンケートした結果である。

Ⅲ. 教育実習や保育所実習で計画通り歌うことができたかどうか。

歌えた (20) どちらでもない (49) 心残りがある (33)

3分の1の学生が「心残りがある」と回答し、「歌えた」学生より多い。その具体的理由は次である。

歌えた理由		どちらでもない・心残りがある理由	
子どもが歌に興味を示した	8	緊張した	23
子どもの前ではあがらなかった	4	メロディが不確かであった	18
歌うことが好きである	4	歌の選曲がよくなかった	9
		〔長いなど〕	
子どもがすでに知っている歌である	2	歌声が小さい	6
〔テレビなど〕		子どもの状態に影響を受けた	6
		〔じっと見る。外遊びに関心など〕	
		歌うことに自身がなかった	4
		歌詞が不確かであった	4
		リズムが不確かであった	2
		歌い出しが実音より高音だった	2
		声の調子が悪かった〔風邪など〕	2

緊張すると音程への影響が大きい。学生本人の状態と子どもたちの歌への関心度が歌声に影響するように思われる。

Ⅳ. 教育実習や保育所実習で歌の伴奏に何を用いたか。

	ピアノ	足踏みオルガン	電気オルガン	範唱のみ	そ の 他
教育実習	98	0	0	2	保育者が弾く1 キーボード1
保育所実習	49	23	16	13	自分の録音1

伴奏に用いた楽器は、教育実習では主にピアノが使用されている。一方保育所実習ではピアノが半数であった。本学の音楽Ⅱ(器楽)の授業もピアノを用い様々な曲や弾き歌いのレッスンが行われている。保育所実習以前にあまり足踏みオルガンを弾く機会がなくとまどった学生もいたようである。

多 保 田 治 江

保育所実習では未熟児クラスも担当するので楽器を用いず、範唱で誘導することも多い。

歌の伴奏が弾けたかどうか

弾けた (20) どちらでもない (45) 心残りがある (37)

歌うこととほぼ同じ割合で、「心残りがある」学生の方が「弾けた」学生より多い。その具体的理由は次である。

弾けた理由		どちらでもない・心残りがある理由	
準備の成果が現れた	6	子どもの前で緊張した	31
歌の選曲がよかった	4	準備不足であった	16
子どもの歌声に支えられた	4	足踏みオルガンに慣れていない	5
子どもの前では緊張しなかった	2	子どもに気を取られた	5
伴奏を自分でアレンジした	2	歌の選曲がよくなかった	2
		伴奏することに自信がない	1
		オルガンは鍵盤が狭い	1

学生の自己評価によれば、歌うこと以上に伴奏を弾くことが緊張したようである。

「なぜ伴奏が必要か」という点に関して

- 伴奏によって歌のイメージが広がる
- メロディとメロディの間（休符）がとりやすい
- 子どもの歌声を支える

など伴奏は重要な役割を担っている。しかしながらかなり高度な音楽性やテクニックが必要な歌があることも事実である。

打開のための1つとして、オリジナルでなくてもその歌の芸術性をこわさないように伴奏をアレンジする能力を持つことが必要である。簡易伴奏の本も市販されてはいるが、中には視点が簡単にとということが主眼となっており芸術性や歌のイメージを膨らますことに欠如しているアレンジも含まれているからである。

また、ピアノに頼るのではなく、過去に学んだギターやシンセサイザーなどの使用も考えられる。子どもと向かい合って弾け容易に子どもの状態を把握できることや持ち運びができるので戸外でも演奏できる利点がある。

今回のアンケートによって1年生・2年生とも多くの学生が歌を歌うことが「好き」であることがわかった。歌を歌うことの快感・解放感を体験している。これは子どもと共に楽しく歌うための第一歩である。どのような方法でその歌の持っている雰囲気子どもに伝達し、自然に歌える環境が構成できるかを考えてみたい。

教育実習における歌による表現活動の実態と考察

「うた」と子どもの出合いは、母親や保育者の「子守歌」・「遊ばせ歌」・「あやし歌」などの歌いかけに始まる。歌のイントネーションやリズム・母親や保育者とのコミュニケーション（歌う時ひざの上で抱く、顔や身体を触わる・身体を揺するなど）によって子どもの心に安心感を与える。

言語の発達・発声器官など身体の発達とともに、歌いかけの歌詞と曲の二面から子どもの心が動かされて協応し、模倣するようになる。つまり、「歌うこと」は子どもの感じたことや考えたことを表現する最も身近な表現方法である。*

子どもの歌への反応は、過去の経験や個性の現われである。そこで、子どもの歌に対するありのままの姿を観察することによって実態を把握することは、子どもが主体的にかかわり、一人一人の発想や創造力が発揮できる場となるような環境を作る糸口となる。

今回、歌による表現活動が教育実習の場でどのように行われているか、子どもたちはどのような反応を示しているかを実習した学生への調査から断片的ではあるが探ってみることとする。

教育実習の形態

○実習幼稚園 13園

（本学付属幼稚園4、金沢市内キリスト教幼稚園9）

○実 習 期 間

1989年 前期4月13日～5月31日、後期6月1日～7月12日

1990年 前期4月15日～5月25日、後期5月30日～6月26日

I. 教育実習期間に歌われた歌

1. 教育実習では、幼稚園の先生が保育する姿を見せていただいたり、実習生が責任を与えられ、保育の一部や半日あるいは終日実習する。今回1989年・1990年の教育実習期間に歌われた歌延べ237曲について調査した。

そのうち3・4・5歳児共通の歌が14曲、3・4歳児共通の歌が10曲、4・5歳児共通の歌が20曲、3・5歳児共通の歌が2曲合計46曲共通に歌われていた。

2. 歌詞の内容によって歌を分類すると次のようになる。

生活・遊びに関連する歌が各年齢ともに多く、43.9%（104曲）であった。

*詳しくは次の論文で扱っている

多保田治江「幼児の歌う活動について（３）」北陸学院短期大学紀要第19号1987年.

多保田 治 江

資料1-1

教育実習期間に使用された歌

※ 表の見方は次である

年	年齢
幼稚園の先生が 使用した歌	実習生が 使用した歌

調性 拍子 音域				1989年						1990年					
				前 期			後 期			前 期			後 期		
				3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5
うさぎのこ	F	$\frac{2}{4}$	f ¹ - c ²	3・1						2					
小鳥のうた	D	$\frac{4}{4}$	d ¹ - d ²	4・2						4					
おつかいありさん	D	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²	2			1								
ぞうさんのぼうし	D	$\frac{4}{4}$	a - h ¹	1									1		
ぞうさん	F	$\frac{3}{4}$	c ¹ - d ²	2						1・1					
いぬのおまわりさん	D	$\frac{4}{4}$	d ¹ - d ²	3・1						1・1					
ひらひらちょうちょう	F	$\frac{3}{4}$	c ¹ - d ²	1						1					
とんでったバナナ	C	$\frac{4}{4}$	h - d ²	1		1	1	1	1	2		1			1・2
せっけんさん	F	$\frac{2}{4}$	c ¹ - d ²	2・7			1			4・2			1・1		
雨だれトントコトン	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - d ²	1										1	
かわいいかくれんぼ	F	$\frac{2}{4}$	c ¹ - c ²	2・1			1			1・2					
チューリップ	F	$\frac{2}{4}$	f ¹ - d ²	2・1						3					
たんぼぼさん	D	$\frac{2}{4}$	d ¹ - h ¹	6・1	2・1	1				5・2					
あひるの行列	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - d ²	1						1			1		
おもちゃのチャチャチャ	C	$\frac{4}{4}$	c ¹ - c ²	2									1		
おはながわらった	F	$\frac{2}{4}$	c ¹ - c ²	1	2					2					
おはなしゆびさん	Es	$\frac{4}{4}$	b - d ²	2		1			1						
みどりのマーチ	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - c ²	2	1・1	4・2				1・2	3	2・3			
早起き時計	F	$\frac{2}{4}$	a - d ²	1		1	1	1							
お花のオルゴール	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - d ²	2	1	1				1	1	1			
こいのぼり	D	$\frac{3}{4}$	d ¹ - d ²	2		1				3・3	1・1	1			
おすもうくまちゃん	B	$\frac{2}{4}$	c ¹ - d ²	1											
ママとゴーゴー	B	$\frac{2}{4}$	b - d ²	1	2	3・1			1		1	4・1			
おかあさん	D	$\frac{4}{4}$	d ¹ - d ²	2・4						5・5	2				
せんせいとおともだち	C	$\frac{4}{4}$	h - c ²	2	1・1					3・1	1	2			
えんそく	F	$\frac{2}{4}$	c ¹ - d ²	1・1											
つばめ	F	$\frac{2}{4}$	f ¹ - d ²	1		1				1					
かたつむり	D	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²	2			1						1		
山の音楽家	G	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²	1	2		1						2	1	
うがいのうた	F	$\frac{2}{4}$	c ¹ - c ²	1			2			1					
ふしぎなポケット	G	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²	1			1						2		
たんぼぼ	D	$\frac{2}{4}$	cis ¹ - d ²	1											
ひよこ	F	$\frac{4}{4}$	f ¹ - d ²	1											
ながぐつマーチ	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - c ²				1								
ピコピコテレパシー	C	$\frac{4}{4}$	d ¹ - d ²				1								
アイアイ	C	$\frac{4}{4}$	c ¹ - d ²				1	1					1		
あまだればっちゃん	A	$\frac{4}{4}$	cis ¹ - cis ²				1・2			2・1			2・1		
かっちゃんこっちゃん	G	$\frac{4}{4}$	d ¹ - h ¹				1								
トマト	F	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²				1・1	1					1・2		
ばいきんくん	F	$\frac{4}{4}$	a - es ²				1								
ちいさいくじらおおきいくじら	G	$\frac{3}{4}$	d ¹ - d ²				1・1	1						1	1
おばけなんてないさ	F	$\frac{4}{4}$	c ¹ - c ²				1							1	1・1
パパとぼく	G	$\frac{4}{4}$	d ¹ - d ²				1	1	2					1	
おほしさま	D	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²				1	2							
こんぺいとう	D	$\frac{2}{4}$	d ¹ - d ²				1								

子どもの豊かな表現活動を求めて(2)

調性、拍子 音域	1989年						1990年					
	前期			後期			前期			後期		
	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5
てんとうむし	C	$\frac{2}{4}$	$d^1 - c^2$			1・1				2		
コッポコッポながぐつさん	C	$\frac{4}{4}$	$d^1 - c^2$			1					1・3	
ぼくのおとうさん	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$			1						
ちちの日	G	$\frac{4}{4}$	$d^1 - d^2$		1	1						
なみとかいがら	C	$\frac{4}{4}$	$c^1 - c^2$		4					1	2	1
とけいのうた	D	$\frac{4}{4}$	$d^1 - d^2$		2	1・2						
しんたいけんさ	B	$\frac{2}{4}$	$b - b^1$				1					
むすんでひらいて	C	$\frac{2}{4}$	$c^1 - a^1$				1					
バナナの親子	C	$\frac{4}{4}$ $\frac{2}{4}$	$c^1 - d^2$				1			1		
でんしゃごっこ	D	$\frac{4}{4}$	$d^1 - d^2$					1				
ぶんぶんぶん	F	$\frac{2}{4}$	$f^1 - c^2$					1				
はなかみしゅん	C	$\frac{2}{4}$	$e^1 - c^2$							1		
はをみがきましょう	C	$\frac{2}{4}$	$c^1 - d^2$							2		
パパの背広	D	$\frac{4}{4}$	$a - d^2$							1		1
ヤッホッホ夏休み	G	$\frac{4}{4}$	$d^1 - e^2$							1		1・1
あめあめふるひ	E	$\frac{4}{4}$	$e^1 - e^2$							1		
ふうせん	C	$\frac{4}{4}$	$c^1 - c^2$							1		
やぎさんゆうびん	F	$\frac{2}{4}$	$c^1 - d^2$							1		
パパのて	C	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$							1		
はしるのだいすき	B	$\frac{4}{4}$	$b - d^2$	2・1				2・2				
ぶらんこ	Es	$\frac{2}{4}$	$es^1 - c^2$	1				2		1		
はなのおくにのきしゃぼっぼ	D	$\frac{4}{4}$	$d^1 - e^2$	1	3・1			1	1			
こりすのふうせんりょうこう	C	$\frac{4}{4}$	$c^1 - c^2$	1・3		1		1・2			1・1	
はるかぜそよそよやってきた	B	$\frac{2}{4}$	$d^1 - d^2$	1・2	3			2	2			
五匹のかえる	F	$\frac{2}{4}$	$c^1 - c^2$	1	1・2		2・5	1	1			3・1
空にらくがきかきたいな	C	$\frac{4}{4}$	$c^1 - h^1$	1・1	2	1		1	1・2			
すみれ	D	$\frac{2}{4}$	$d^1 - d^2$	1								
おはようクレヨン	C	$\frac{4}{4}$	$g - c^2$	1			3				1	
ほかほかてくてく	D	$\frac{4}{4}$	$d^1 - h^1$	1・1				1				
きょうからともだち	C	$\frac{4}{4}$	$d^1 - c^2$	1								
バスごっこ	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$	1	1		2	2・2	2			
春がくる	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - c^2$	1								
おふろじゃぶじゃぶ	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$	1								
ジャングルジムのうた	D	$\frac{4}{4}$	$d^1 - e^2$	1								
おひさまおはよう	Es	$\frac{2}{4}$	$d^1 - c^2$	1				1				
大きなうた	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$	1								
ニャニョのてんきよほう	G	$\frac{4}{4}$	$d^1 - d^2$	1				1・1				
いいなともだち	C	$\frac{2}{4}$	$c^1 - d^2$		1			1				
たんぼぼヘリコプター	D	$\frac{4}{4}$ $\frac{2}{4}$	$h - h^1$	1	1							
山のワルツ	Es	$\frac{2}{4}$	$b - es^2$	3	1	1・1	4	1	1・1	1	1・1	1
ありさんのおはなし	F	$\frac{2}{4}$	$c^1 - d^2$	1		1・2	1	1・2	1		1	
森の熊さん	C	$\frac{2}{4}$	$c^1 - c^2$	1	3							
そらでえんそくしてみたい	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$	1	1・5			2	4・3			1・1
おおきい木	F	$\frac{4}{4}$	$c^1 - d^2$	2					1		1	

多保田 治 江

資料1-2

教育実習期間に使用された歌

調性 拍子 音域	1989年						1990年					
	前 期			後 期			前 期			後 期		
	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5
かあさんとおはなし		1										
時計のうた		1	2	1						3・2		
おなかのとけい				1							1	
あめのなかのこいぬ				1								
すてきなパパ				1・1						1		
すうじの歌				1							1	
うたえてのひら				1								
ドロップスの歌				2							1	
カレーライスのうた				1								
スイムスイム					1							
くらげのさんぽ					1						2・1	
白熊のジェンカ					1							
おおきなかぶ					1							
たなばたさま					1							
南の島のハメハメハ大王					1			1				
まわれまわれかんらんしゃ								1				
はみがきのうた								1		1		
ちびっこマーチ								1				
はぶらしくわえて								1				
ツッピンとびうお											1	1
ぼくのミックスジュース											1	
あらどこだ												
たんぽぽ			4・1						2・1			
みんなのはる			1・1						1			
もんしろちょう			2							1		
風のうた			1						1・1			
春のお電話			1									
踊ろう楽しいポーレチケ			1							1		
おなかのへるうた			1									
つくしんぼう			1									
さくらのうた			2・1						1			
春のかぜ			1						1			
よる			1									
ピクニック			2			1				1		1
手のひらを太陽に			1									
そらとぶおうま			1									
サンサンサン			1・1									
クラリネットこわしちゃった			2									
空へのぼったふうせん			1		2	4・1		2	1			2・1
カレンダーマーチ			1									
小さな世界			2		2	2		1			1	
ママごめんなさい			1									
じまん			1						1			

子どもの豊かな表現活動を求めて(2)

調性 拍子 音域				1989年						1990年					
				前 期			後 期			前 期			後 期		
				3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5
とんとんともだち	E	4	h - cis ²			1						1			
ともだちさんか	B	4	d ¹ - d ²			1・1			1			1			1
地球はメリーゴーランド	C	2	c ¹ - c ²			1		2			1	1			
大きな古時計	G	4	d ¹ - d ²			1			3・3		1	1			1・2
しまうまのうた	G	4	c ¹ - d ²			1						1			
たのしいね	FGes	4	c ¹ - es ²			1						3・1			3
ドレミのうた	C	2	c ¹ - c ²			1									
りんごころん	E	2	cis ¹ - cis ²			1									
てんとうむし	D	8	h - d ²			1									1
ちいさいさかな	C	2	c ¹ - c ²			1						1・1			
ちょうちょうさん	C	2 2	d ¹ - c ²			1						2			
みぎてどっち	C	4	c ¹ - c ²			2									
ぷるるんるん	B	4	c ¹ - b ¹			1 1						1			1
あめふりくまのこ	D	2	h - d ²			1	1	4・1		1・1	1		2・1		
はたけのポルカ	F	2	f ¹ - d ²			1				1					
そよかぜううびんやさん	F	2	c ¹ - d ²			1									
ママのエプロンかけるとね	As	2	as - b ¹			1									
あさいちばんはやいのは	C	4	c ¹ - d ²			1									
ぼくはキャプテン	B	4	c ¹ - d ²						2					1	
宇宙ロケット	F	2 4	c ¹ - c ²						1・3					1 3・1	
きょうだいげんかを	F	4	c ¹ - d ²						1						
モーターポート	D	4	cis ¹ - d ²						2						
にじ	e	2	d ¹ - d ²						2					1	1
のろのろでんでんむし	Es	4	es ¹ - c ²						2						1・1
アイスクリームのうた	B	4	g - d ²						1				1		1・2
月火水木金土日のうた	C	4	c ¹ - c ²						1・1		1	1			1
あめのこ	D	4	a - e ²						2						1・1
うみのそこにはあおいうち	D	2	a - c ²						1						
はやくてんきになあれ	F	4	c ¹ - d ²						1						
幸せなら手をたたこう	G	4	d ¹ - c ²									1			
風よふけふけ	B	4	d ¹ - es ²									1			
もんしろ蝶の郵便屋さん	E	4	h - cis ²									1			
おへそ	D	2	a - d ²									1			
はるはともだち	C	4	e ¹ - c ²									1			
ビビディバビディブー	F	4	c ¹ - d ²									1			
パワフルパワー	C	2	c ¹ - d ²									1			
ゆるしてママ	C	4	c ¹ - d ²									1			
もしもしもしも	C	4	c ¹ - c ²									1			
みんなでつくったてるてるぼうず	C	4	c ¹ - c ²												1・1

多 保 田 治 江

資料Ⅰ－3 教育実習期間に使用された歌の曲数

3歳児(74) 4歳児(80) 5歳児(83)

3・4歳児共通		4・5歳児共通		3・4・5歳児共通	
1	ぞうさんのぼうし	1	はるかぜそよそよやってきた	1	とんでったバナナ
2	おはながわらった	2	五匹のかえる	2	たんぼぼさん
3	早起き時計	3	空にらくがきかきたいな	3	おはなしゆびさん
4	おかあさん	4	バスごっこ	4	みどりのマーチ
5	山の音楽家	5	おひさまおはよう	5	お花のオルゴール
6	アイアイ	6	たんぼぼヘリコプター	6	こいのぼり
7	トマト	7	山のワルツ	7	ママとゴーゴー
8	おほしさま	8	森の熊さん	8	せんせいとおともだち
9	ちちの日	9	そらでえんそくしてみたい	9	つばめ
10	とけいのうた	10	おおきい木	10	ちいさいくじらおおきいくじら
		11	ツッピンとびうお	11	おばけなんてないさ
		12	空へのぼったふうせん	12	パパとぼく
		13	小さな世界	13	コッポコッポながぐつさん
		14	地球はメリーゴーランド	14	なみとかいがら
		15	大きな古時計		
		16	あめふりくまのこ		
		17	ぼくはキャプテン	3・5歳児共通	
		18	宇宙ロケット	1	パパの背広
		19	にじ	2	ヤッホッホ夏休み
		20	月火水木金土日のうた		

Ⅰ－4 教育実習期間に使用された歌の分類

ジャンル	3歳児	4歳児	5歳児	計
生活・遊び	30	38	36	104
動物	20	16	15	51
季節・行事	11	9	10	30
植物	5	7	7	19
自然	3	4	11	18
食物	4	4	2	10
乗り物	1	2	2	5

3. 音楽的観点から、調性・拍子・音域について分類しまとめたものが表2・表3・表4である。

- ・調性では、へ長調の曲が30.4% (72曲)、ハ長調の曲が23.6% (56曲)、ニ長調の曲が19.0% (45曲)と多かった。短調は「にじ」1曲であった。また、「たのしいね」は途中へ長調から変ト長調に転調するが間奏によって無理なく歌えるように思える。
- ・拍子に関してみると、4/4拍子の曲が57.0% (135曲)、2/4拍子の曲が27.8% (66曲)など2拍子系が91.6% (217曲)と圧倒的に多かった。

子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

表２ 教育実習期間に使用された歌の調性

	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
へ長調	26	23	23	72
ハ長調	16	20	20	56
ニ長調	16	15	14	45
ト長調	7	8	7	22
変ロ長調	5	5	8	18
変ホ長調	2	5	5	12
ホ長調	1	1	3	5
変イ長調		1	1	2
イ長調	1	1		2
ホ短調		1	1	2
へ長調→変ト長調			1	1

表３ 教育実習期間に使用された歌の拍子

拍 子		曲 数			計	
		3 歳児	4 歳児	5 歳児		
2 拍子系	$\frac{4}{4}$	38	48	49	135	217
	$\frac{2}{4}$	26	20	20	66	
	$\frac{3}{4}$	2	2	5	9	
	$\frac{2}{4} \cdot \frac{4}{4}$		1	1	2	
	$\frac{4}{4} \cdot \frac{8}{8}$		2	2	4	
				1	1	
3 拍子系	$\frac{3}{4}$	7	7	4	18	18
そ の 他	$\frac{4}{4} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{3}{4}$	1		1	2	2

途中で拍子を変更する 8 曲のうち、6 曲は同じ拍子系であった。その他「バナナの親子」は 4/4 拍子から 3/4 拍子、「ちょうちょうさん」は 2/4 拍子から 3/4 拍子に変更している。

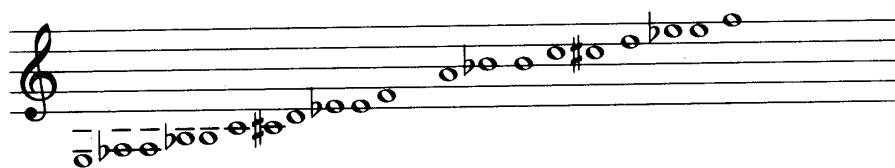
- ・音域に関してみると、5 度音域から 12 度音域まで 8 種類あった。その中で 8 度音域が 39.7% (94 曲)、9 度音域が 28.7% (68 曲) と多かった。音域の幅の狭い 5 度の歌は、「うさぎのこ」・「ぶんぶんぶん」でいずれも 3 歳児対象に歌われている。また、音域の幅の広い 12 度の歌は、「ばいきんくん」(3 歳児)、「ぼくのミックスジュース」(4 歳児)、「あめのこ」(5 歳児)、「アイスクリームのうた」(3・5 歳児)、「小さな世界」(4・5 歳児) で年齢に関係なく歌われている。

4. 1889 年・1990 年の教育実習期間に幼稚園の先生や実習生が行った歌による表現活動は延べ 936 回であった。そのうち 13.0% (122 回) 範唱で行われている。

一方、歌のイメージを膨らませるものとして用いたものは何かについての回答が表 6 である。

表4 教育実習期間に使用された歌の音域

	3 歳児	4 歳児	5 歳児
f ¹ ————— d ²	3	2	2
f ¹ ————— c ²	2		
e ¹ ————— e ²	1		1
e ¹ ————— c ²	1		1
es ¹ ————— c ²		1	1
d ¹ ————— e ²	1	3	2
d ¹ ————— e ²	18	16	9
d ¹ ————— c ²	2	3	6
d ¹ ————— h ¹	2	2	1
cis ¹ ————— d ²	1		1
cis ¹ ————— cis ²	1		1
cis ¹ ————— h ¹		1	
c ¹ ————— f ²			1
c ¹ ————— es ²			1
c ¹ ————— d ²	16	13	18
c ¹ ————— c ²	10	19	15
c ¹ ————— h ¹		1	1
c ¹ ————— b ¹	1		1
c ¹ ————— a ¹	1		1
h ————— e ²		1	1
h ————— d ²	2	3	4
h ————— cis ²		1	2
h ————— c ²	2	2	1
h ————— h ¹		1	1
b ————— f ²		1	
b ————— es ²	1	1	1
b ————— d ²	2	3	4
b ————— b ¹	1		
a ————— e ²		1	2
a ————— es ²	1		
a ————— d ²	2	1	2
a ————— c ²			1
a ————— h ¹	1	3	
as ————— b ¹			1
g ————— d ²	1		1
g ————— c ²	1	1	



子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

音域	5度	6度	7度	8度	9度	10度	11度	12度
	$f^1 - c^2$	$f^1 - d^2$	$d^1 - c^2$	$e^1 - e^2$	$d^1 - e^2$	$c^1 - es^2$	$c^1 - f^2$	$b - f^2$
	$e^1 - c^2$	$cis^1 - h^1$	$d^1 - d^2$	$cis^1 - d^2$	$h - d^2$	$h - e^2$	$a - e^2$	
	$es^1 - c^2$	$c^1 - h^1$	$cis^1 - cis^2$	$c^1 - d^2$	$b - d^2$	$b - es^2$	$a - es^2$	
	$d^1 - h^1$	$c^1 - b^1$	$c^1 - c^2$	$h - cis^2$	$a - c^2$	$a - d^2$	$g - d^2$	
	$c^1 - a^1$		$h - h^1$	$h - c^2$		$g - c^2$		
			$b - b^1$	$a - h^1$				
				$as^1 - b^1$				
曲数	2	17	16	4	68	20	13	7

表 5

うたう活動総数（936回）〔幼稚園の先生〕〔実習生〕

			1989年			1990年			1989年			1990年			計
範唱のみ	担当年齢		3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	
			27	16	32	12	3	18	8	1	5	1	1		122

絵・絵本・絵巻物25.9%（211回）、歌詞を言う23.1%（188回）、ペープサート15.0%（122回）フランネルグラフ11.8%（96回）など視覚的なものが60.7%（494回）とか多かった。

実物では、せっけん（臭覚）・時計（聴覚）・風船や貝（触覚）など視覚と重複して子どもを刺激するものも用いられている。

表 6

〔幼稚園の先生〕

〔実習生〕

		1989年			1990年			1989年			1990年			計	
担当年齢		3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5		
用いたもの		3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5		
絵・絵本・絵巻物		12	17	24	15	9	13	20	22	20	19	16	24	211	・桜 ・つくし ・貝 ・時計 ・長靴 ・手袋 ・鼻紙 ・画用紙 ・風船 ・ゴミ箱
歌詩を言う		14	8	28	19	17	9	10	14	16	14	15	24	188	・茶碗・箸 ・エプロン ・クレヨン ・キップ ・こいのぼり
ペープサート		13	3	5	9	5	6	22	16	11	14	8	10	122	
フランネルグラフ		11	6	2	5	5	4	8	12	11	7	12	13	96	
お話		10	7	11	7	3	4	9	10	5	10	7	9	92	
実物 (注1)		5		2	6	1	1	7	2	3	11	1	4	43	
他の活動と関連づける (注2)		4		1	4	1	1	1	1	3	4	1	1	22	
身体の動き		6	1		1			2						10	
制作品		1			1			5			1		1	9	
人形 (注3)		2			2	1		1			2			8	
楽器・効果音・クラッピング (注4)		3			1	1		1	1		1			8	
グリーンボード				1		1	1	1						4	
お面						1								1	

注1

・たんぽぽ

・チューリップ

・トマト

・こんぺいとう

・かたつむり

・せっけん

・茶碗・箸

・エプロン

・クレヨン

・キップ

・こいのぼり

注2

・描く活動

・自然観察

・戸外あそび

・母の日

・父の日

・遠足

・身体検査

・手洗い

・虫歯予防

・身体を用いた表現活動

・プラネタリウム

注3

・指人形

・あやつり人形

注4

・ボンゴ

・ハンドベル

・テンブル

・太鼓

注1

- ・たんぽぽ
- ・チューリップ
- ・トマト
- ・こんぺいとう
- ・かたつむり
- ・せっけん
- ・茶碗・箸
- ・エプロン
- ・クレヨン
- ・キップ
- ・こいのぼり
- ・桜
- ・つくし
- ・貝
- ・時計
- ・長靴
- ・手袋
- ・鼻紙
- ・画用紙
- ・風船
- ・ゴミ箱

注2

- ・描く活動
- ・自然観察
- ・戸外あそび
- ・母の日
- ・父の日
- ・遠足
- ・身体検査
- ・手洗い
- ・虫歯予防
- ・身体を用いた表現活動
- ・プラネタリウム

注3

- ・指人形
- ・あやつり人形
- ・手人形

注4

- ・ボンゴ
- ・太鼓
- ・ハンドベル
- ・テンブルブロック・雨音

5. 歌による表現活動における子どもの状態について学生が見たまま、感じたままを回答し、項目別に整理したものが表7である。

表7

子どもの反応		(曲数)
1	活動に用いたものに関心を持つ	72
2	歌詩がはっきりしなかったり混乱する	61
3	楽しそうに歌う	43
4	意欲的に歌う	39
5	保育者・実習生の口元を直視する	38
6	繰り返される歌詞から歌い始める	35
7	すぐに歌えるようになる	32
8	擬声語・擬態語・擬音などリズムカルな歌詞を楽しむ	28
9	歌い方に個人差がある	22
10	自発的に身体の動きをつけて歌う	21
11	生活に密着した歌に関心を持つ	20
12	自信を持って歌う	15
13	リズムカルに歌う	15
14	様々な条件で歌い方が変化する	14
15	興味を持つと活動後も歌う	11
16	歌の雰囲気を感じている	9
17	活動に用いたものに関心をもちすぎると歌うことがおろそかになる	8
18	歌の題材に関心を持つ	6
19	歌に合わせてクラッピングする	5
20	替え歌にして楽しむ	4

この調査は、子どもが歌を歌えたかどうかという観点ではなく、歌をどう感じたかその経緯を知るためである。

○一番多かったのは、この活動に用いたものに関心を持つということであった。歌のイメージを膨らませるため視覚的なものを多く用いていることは、前述どおりである。しかしながら、用い方によっては歌うことがおろそかになることも指摘されている。

○歌詞がはっきりしなかったり混乱した歌は次の61曲である。

長い歌で歌詞がはっきりしなかったり、1題目は歌えるが、2題・3題と続けて歌うと歌詞が混乱する。

教育実習で実習生が歌による表現活動を行う場合、継続して誘導できないことも一因である。

子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

２ 歌詞がはっきりしなかったり混乱する 61

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
ママとゴーゴー		
なみとかいがら		
せんせいとおともだち		
あひるの行列	宇宙ロケット	
おはようクレヨン	おはなしゆびさん	
かたつむり	お花のオルゴール	
かわいいかくれんぼ	ありさんのおはなし	アイスクリームのうた
こんぺいとう	あめのなかのこいぬ	うみのそこにはあおいうち
せっけんさん	おおきい木	踊ろう楽しいポーレチケ
ぞうさん	おひさまおはよう	風のうた
ちちの日	こりすのふうせんりょうこう	カレンダーマーチ
はをみがきましょう	白熊のジェンカ	クラリネットこわしちやつた
バナナの親子	ジャングルジムのうた	月火水木金土日のうた
パパのて	スイムスイム	五匹のかえる
14	ちいさいくじらおおきいくじら	そらでえんそくしてみたい
	時計のうた	そらとおおうま
	みどりのマーチ	空にらくがきかきたいな
	南の島のハメハメハ大王	空へのぼったふうせん
	森の熊さん	ちいさいさかな
	山のワルツ	とんでったバナナ
	19	にじ
		はるかぜそよそよやってきた
		春のかぜ
		ピクニック
		ビビディバビディブー
		ぷるるんるん
		もんしろちょう
		もんしろ蝶の郵便屋さん
		よる
		28

○楽しそうに歌う歌が43曲、意欲的に歌う歌が39曲であった。

楽しく感じたり、子どもの心を動かす歌は歌のメロディや伴奏のリズムがリズムカルな歌や歌詞の題材が子どもの生活に密着した内容であったり、子どもの夢を扱った歌など子どもの共感を呼ぶものである。

○聴唱法で歌を誘導する場合、保育者や実習生の口元を子どもは直視する。誘導者はよく歌い、表情豊かに歌う準備が必要である。

○繰り返される歌詞から歌う始める歌は次の35曲である。

これは保育者や実習生の範唱の中で子どもたちにとって印象深かった部分から歌い始めるという特徴の現れでもある。

多 保 田 治 江

3 楽しそうに歌う 43

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
バスごっこ		あさいちばんはやいのは
時計のうた		あめのこ
おつかいありさん	あめふりくまのこ	大きな古時計
小鳥のうた	おはなしゆびさん	月火水木金土日のうた
すてきなパパ	きょうからともだち	こいのぼり
トマト	くらげのさんぽ	五匹のかえる
とんでったバナナ	ぞうさんのぼうし	せんせいとおともだち
はたけのポルカ	ちちの日	空にらくがきかきたいな
ひらひらちょうちょう	ツッピンととびうお	たのしいね
ふしぎなポケット 10	はみがきのうた	小さな世界
	春がくる	つくしんぼう
	山のワルツ 12	ともだちさんか
		とんとんともだち
		はるかぜそよそよやってきた
		ピクニック
		ぼくはキャプテン
		ママとゴーゴー
		ママごめんなさい
		みどりのマーチ
		森の熊さん 21

4 意欲的に歌う 39

時計のうた		あさいちばんはやいのは
パパとぼく		
あひるの行列	小さな世界	
あめあめふるひ	にじ	
あめふりくまのこ	こりすのふうせんりょうこう	あめのこ
ありさんのおはなし	白熊のジェンカ	海にわすれたタンパリン
おかあさん	そうだったらいいのにな	大きな古時計
おばけなんてないさ	ちちの日	おひさまおはよう
せっけんさん	つばめ	月火水木金土日のうた
たんぼぼさん	とんでったバナナ	そらでえんそくしてみたい
チューリップ	はぶらしくわえて	空へのぼったふうせん
なみとかいがら	はみがきのうた	ちいさいさかな
バナナの親子 13	山のワルツ 12	ともだちさんか
		ぼくはキャプテン 14

子どもの豊かな表現活動を求めて (2)

6 繰り返される歌詞から歌い始める 35

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
アイアイ		宇宙ロケット
こりすのふうせんりょうこう		踊ろう楽しいポーレチケ
たんぼぼさん		おなかのへるうた
おつかいありさん	いいなともだち	風よふけふけ
おはなしゆびさん	おかあさん	さくらさくら
コッポコッポながぐつさん	そうだったらいいのにな	サンサンサン
せんせいとおともだち	地球はメリーゴーランド	じまん
てんとうむし	ぼくのミックスジュース	そらにらくがきかきたいな
とんでったバナナ	山のワルツ	空へのぼったふうせん
なみとかいがら		たんぼぼ
ぶるるんるん		パワフルパワー
みどりのマーチ		みぎてどっち
ヤッホッホ夏休み		よる
13	9	13

○すぐに歌えるようになった歌は32曲であった。

既に子どもたちが幼稚園やテレビ・コンパクトディスクなどで知っていた歌や歌詞の題材が生活に密着した内容であったり、ユーモアがあり歌のメロディや伴奏のリズムがリズムカルな歌である。

7 すぐに歌えるようになる 32

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
うさぎのこ	大きなうた	お花のオルゴール
おかあさん	お花がわらった	おばけなんてないさ
おはようクレヨン	かあさんとおはなし	月火水木金土日のうた
かわいいかくれんぼ	小さな世界	五匹のかえる
せっけんさん	はしるのだいすき	空へのぼったふうせん
ぞうさん		そらでえんそくしてみたい
たんぼぼさん		たんぼぼ
チューリップ		つばめ
はたけのポルカ		てんとうむし
パパの背広		パパとぼく
ふしぎなポケット		はなのおくにのきしゃぼっぼ
11	5	はるかぜそよそよやってきた
		春のかぜ
		ぶるるんるん
		ママとゴーゴー
		みんなでつくったてるてるぼうず
		16

多 保 田 治 江

○擬声語・擬態語・擬音などリズムミカルな歌詞の歌を3歳児が最も楽しんだ。

8 擬声語・擬態語・擬音などリズムミカルな歌詞を楽しむ 28

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
あまだればっちゃん	バスごっこ	
いぬのおまわりさん	はなのおくにのきしゃぼっぼ	
うさぎのこ	おなかのとけい	宇宙ロケット
小鳥のうた	おほしさま	五匹のかえる
つばめ	コッポコッポながぐつさん	春のお電話
とけいのうた	空にらくがきかきたいな	ピクニック
時計のうた	ツッピンとびうお	ぷるるんるん 7
ばいきんくん	ニャニユニョのてんきよほう	
早起き時計	はしるのだいすき 9	
ピコピコテレパシー		
ひらひらちょうちょう		
山のワルツ 12		

○歌い方に個人差がある曲は22曲であった。

歌を歌うことが大好きな子ども、あまり関心がなくふざけてしまう子ども、歌うより聞
ことが好きな子どもなど一人一人の子どもの歌に対する感性を知ることができる。

○自発的に身体の動きをつけて歌う歌は21曲であった。

10 自発的に身体の動きをつけて歌う 21

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
バスごっこ		
お花のオルゴール		
おつかいありさん	せんせいとおともだち	大きな古時計
おはなしゆびさん	ぶらんこ	さくらのうた
時計のうた	まわれまわれかんらんしゃ	そよかぜそよそよやってきた
ながぐつマーチ	山の音楽家	手のひらを太陽に
ひらひらちょうちょう	山のワルツ 6	とんとんともだち 7
ぷるるんるん 8		

歌詞の題材が生活に密着した内容であったり、歌のメロディや伴奏のリズムがリズムミカルな歌や「バスごっこ」のように身体の動きの描写が歌詞にあると心が動かされ自然に身体が動いている。

○特に3歳児が生活に密着した歌に関心を持っている。

子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

11身近な歌詞に関心を持つ 20

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
こいのぼり		たんぼぼ
せんせいとおともだち		つばめ
山のワルツ		みんなのはる 3
うがいのうた	ジャングルジムのうた	
おかあさん	すみれ	
せっけんさん	はをみがきましょう 6	
チューリップ		
とけいのうた		
トマト		
ながぐつマーチ		
ぶらんこ 11		

4歳児で「すみれ」の歌があるが、子どもたちの組名と同じだったため子どもは関心を示したようである。

○子どもの歌としてよく親しまれ、幼稚園以外でも歌う頻度のある歌は子どもが自信を持って歌っている。

12自信を持って歌う 15

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
こいのぼり		
いぬのおまわりさん	せんせいとおともだち	大きな古時計
かたつむり	小さな世界	たのしいね
かわいいかくれんぼ	とけいのうた	てんとうむし 4
チューリップ	山の音楽家 5	
やぎさんゆうびん 6		

○リズムカルに歌った歌は15曲あり、歌自体がリズムカルで躍動感があふれている。

12リズムカルに歌う 15

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
アイアイ	うたえてのひら	たんぼぼさん
あひるの行列	カレーライスのうた	とんとんともだち
おもちゃのチャチャチャ	ツッピンとびうお	早起き時計 3
とんでったバナナ	ドロップスのうた	
ぼくのおとうさん	はしるのだいすき 5	
ヤッホッホ夏休み		
みどりのマーチ 7		

○様々な条件で歌い方が変化した歌が14曲あった。

積極的に歌う

- ・遠足に行く
- ・プラネタリウムに行く
- ・楽器を用いる
- ・身体の動きをつける

消極的に歌う

- ・昼食直前である
- ・激しい運動で疲れている
- ・戸外遊びに関心がある
- ・天候がよい（雨を題材とした歌）

積極的に歌うようになった条件として、子どもが体験した他の活動と関連があったり、歌う時に楽器や身体の動きを加えたことであった。

消極的に歌うようになった条件として、子どもが歌以外のことに興味や関心がある時・コンディションが悪い時・天候が歌詞と一致していない時であった。

○歌詞の内容や曲ばかりでなく、子どもたちのコンディション・子どもたちが持つ蓄積されたイメージ・保育の流れ・歌による表現活動の誘導方法・天候などが様々に絡み子どもの心が動かされ、感じたまま、思うがままに歌う。

15興味を持つと活動後も歌う 11

3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
あめあめふるひ おつかいありさん せっけんさん たんぼぼさん チューリップ 5	すうじのうた 1	おへそ こいのぼり そらでえんそくしてみたい 春のお電話 みどりのマーチ 5

16歌の雰囲気を感じている 9

4 歳 児	5 歳 児
ぞうさんのぼうし ちいさいくじらおおきいくじら バスごっこ はなのおくにのきしゃぼっぼ 春がくる ぶらんこ 6	大きな古時計 にじ ヤッホッホ夏休み 3

18歌の題材に関心を持つ 6

3 歳 児	5 歳 児
かたつむり せっけんさん てんとうむし 3	五匹のかえる ピピディバビディブー モーターボート 3

子どもの豊かな表現活動を求めて（２）

19歌に合わせクラッピングする 5

3 歳 児 おもちゃのチャチャチャ とんでったバナナ 2	4 歳 児 うたえてのひら 1	5 歳 児 幸せなら手をたたこう たのしいね 2
------------------------------------	--------------------	--------------------------------

20替え歌にして楽しむ 4

3 歳 児 小鳥のうた 山の音楽家 2	5 歳 児 五匹のかえる みどりのマーチ 2
---------------------------	------------------------------

人と音楽のかかわりについてアメリカの音楽教育学者マーセル（J. L. Mursell）は「音楽の人的価値は、音楽自体にあるのではなく、音楽に対する私たちの反応の仕方と、私たちが音楽をどう用いるかにある」と述べている。^{註2}

6．歌による表現活動について学生の主な感想は次である。

- ・範唱が大切である。
- ・環境構成が大切である。
- ・保育者のことばかけが大切である。
- ・子どもの歌を聞くためにも伴奏の準備が必要である。
- ・歌声とのバランスを考えて伴奏を弾くことが大切である。
- ・保育者の表情が大切である。
- ・絵やペープサートやフланネルグラフなどは歌詞を想起するために必要である。
- ・楽器を用いると歌声が生き生きとなる。
- ・子どもの意見を生かすことが大切である。
- ・身体の動きによって歌い方が生き生きとなる。
- ・異年齢の子どもの歌声が刺激となる。

範唱が行われる時、子どもたちが保育者や実習生の口元を直視するという体験によって、範唱の重要性を痛感したようである。また、視聴覚メディアの普及で何かを用いないと歌を誘導できないという固定概念が学生にはあるが、子どもたちが歌ってみたいと共感するような「誘導者の歌声」、単に誘導する歌だけのためではない広い意味での「環境作り」、子どもたちにを励ます「ことばかけ」、互いに刺激し影響する「子どもの存在」の重要性を実感したようである。

子どもの豊かな表現活動を支えるために、保育者自らの豊かな感性や表現力が必要である。そのためには音楽的感受性と音楽的技能の両方を兼ね備えた保育者を養成しなければならない。

多 保 田 治 江

おわりに

豊かな感性や創造性は、子どもが生活の中で心を動かす出来事に出合い、自分の感情や経験を豊かに表現する機会を持つことによって高められ、さらには、様々な表現を子どもなりに獲得し楽しんでいけるような環境の中で育まれていくものである。

教育実習という限定された期間にもかかわらず多くの歌が歌われていた。歌うことによって、リズム・旋律・重なり・速度・音色・音力・形式など音楽の構成要素に触れることができる。例えば、音力に触れることにより声のコントロールを知るなどより豊かな表現活動につながる。様々な歌を歌うことによって片寄らないで音楽の構成要素に子どもが気づくように保育者は心がけたい。

いろいろなスタイル（一人・グループ・クラス全体）で歌うことによって、他の子どもの歌い方を見たり、模倣したり、互いに刺激され影響して新しい歌い方に気づくことを可能にする。また、クラス全体で歌うことはダイナミックに表現できるばかりではなく子ども同志表現する楽しさ・喜びを共有することができる。

保育者は子どもの歌に対するありのままの姿を観察し実態を把握することによって、子どもが主体的にかかわり一人一人の発想や創造力が発揮できる場となるような環境を作ること・子どもにふさわしい教材選択ができることが必要である。そして、子どもが「歌うことは楽しい。面白い」ということに気づき、「また歌ってみたい」という心情を持つことが子どもの豊かな表現活動につながるのである。

附 記

今回、実習幼稚園である北陸学院短期大学付属幼稚園並びに金沢市内キリスト教幼稚園の先生方には学生を通して貴重な資料を得させていただき感謝しております。また、調査に協力してくれた学生の皆さんにも合わせて感謝しております。

註

1. 多保田治江 「子どもの豊かな表現活動を求めて」 北陸学院短期大学紀要第22号 1990年
2. J. L. Mursell "Human Values in Music Education" 美田節子訳「音楽教育と人間形成」p.135 音楽之友社 1967年

参 考 文 献

- ・ F. W. Aronoff "Music and Young Children" 1979年
畑 玲子訳「幼児と音楽」音楽之友社 1990年
- ・ M. Tolt & P. Hacck "Principles and Processes of Music Education" 1984年
干成俊夫・竹内俊一・山田潤次訳「音楽教育の原理と方法」音楽之友社 1991年
- ・ 文部省「幼稚園教育指導書増補版」フレーベル館 1989年
- ・ 松本恒敏・山本文茂「創造的音楽学習の試み、この音でいいかな？」音楽之友社 1986年